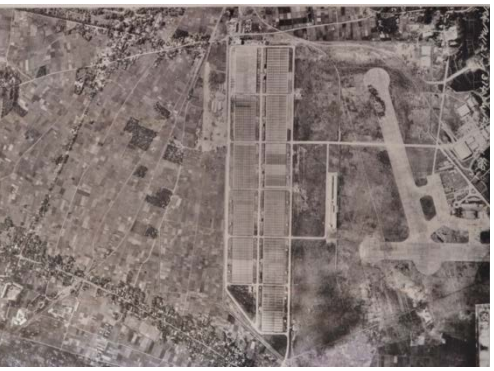
東京外国語大学 出張企画展

なぜ府中に外大が？

～東京外国語大学の歴史と府中キャンパス移転～



東京外国語大学文書館

×

ふるさと府中歴史館

期間：2018年9月26日(水)～11月25日(日)
時間：9:00～17:00　※月曜日は休館
場所：府中市立ふるさと府中歴史館2階　※入館無料
※交通案内：京王線府中駅より徒歩5分
JR南武線、武蔵野線 府中本町駅より徒歩3分
※問合せ：東京外国語大学文書館　東京都府中市朝日町3-11-1
TEL 042-330-5842

東京外国語大学の府中キャンパス移転

２．関東村跡地の利用計画

関東村跡地は、現在の府中市朝日町三丁目と調布市、三鷹市にまたがる土地で、1941年に調布飛行場建設のために切り開かれました。戦後は米軍に接収され、1946年に調布水耕農園及び補助飛行場として使用され、1963年からは米軍人とその家族らが居住する関東村住宅地区として利用されました。

1974年、関東村住宅地区は米軍から国へ正式に全面返還されます。跡地の利用については府中市・調布市・三鷹市の地元三市で協議が進められました。府中市では1973年11月、跡地利用について市民を対象としたアンケート調査を実施し、1975年その成果を『平和の森・太陽の森基本構想《府中基地・関東村跡地利用》』としてまとめました。

また1977年、府中市議会は「国立の総合病院誘致に関する要望書」を採択し、総合病院の誘致にも力を入れました。(上写真：関東村航空写真)

１．東京外国語大学の移転

1985年7月、文部省より府中地区旧関東村跡地への移転が打診されると、同年10月、教授会において移転希望の方針が決定され、各種委員会が設置されます。こうして、1988年長幸男学長のもと「移転統合の基本構想」がまとめられました。

他方で、地元三市に対して、東京外国語大学の移転が正式に示されたのは、移転が閣議決定された後の1988年7月25日第29回六者協議会においてでした。

その後、「国の機関等移転指針連絡会議」、「国有財産中央審議会」、「国立学校の統合整備等に関する連絡調整会議」の審議を経て、1994年には国有財産中央審議会において新キャンパスの位置・面積が決まり、1997年府中キャンパス建設が着工され、2000年に移転します。(下写真：2000年七月航空写真)

東京外国語大学文書館とふるさと府中歴史館の連携事業

３．東京外国語大学文書館の役割

東京外国語大学文書館は、本学の歴史に関わる資料の収集・整理・保存、調査研究等を目的に、2012年4月に発足致しました。大学文書館の主な役割は、大学の教育・研究活動に関わる資料を将来にわたって継続的に収集・整理・保存し、学内外の方が資料を利用できる環境を整備することです。

また、公文書管理の重要性が指摘される今日、本学を含む国立大学法人もまた法人文書(公文書)の管理徹底が求められています。大学文書館は、2016年4月に「国立公文書館等」の指定を受け、学内の法人文書(公文書)の管理体制整備を進めるとともに、地域の公文書管理に関する調査・研究の中核(ハブ)施設となるべく活動しています。

大学文書館では、資料の保存など文書館活動を通じた大学-地方自治体間の「協働」のモデル構築を目指し、2016年度より府中市との連携事業に力を入れています。府中市行政文書整理受託事業では、ふるさと府中歴史館が所蔵する行政文書の件名目録の作成を進めています。また、2016・2017年度には、本学の文化祭である外語祭の期間中に連携企画展を開催し、受託事業の調査で明らかとなった歴史事象や、現在、府中市で進められている年史編纂事業により新たに発見された資料群について紹介しました。(上写真：行政文書整理の様子、下写真：展示風景)